



スピーカーケーブル JFSounds MS227C

芯材にマグネシウムワイヤを配置した
新発想のスピーカーケーブル



なぜマグネシウム?!

●マグネシウムは、以下のような優れた特性を有した金属です。

- 軽量性 銅線の1/5の重さです。比重(g/cm³)純マグネシウム…1.7 銅…8.8
- 振動吸収性 実用金属の中でも非常に高い減衰能を有し、振動を吸収します。
- 電磁波シールド性 広い周波数帯で、高い電磁波シールド性を有します。
- 放熱性 熱しやすく冷めやすい、放熱効果が高い素材です。

ケーブル状態での制振性効果は?

ケーブル形状でのマグネシウムの制振効果はどうなのでしょう?

純マグネシウムを芯材に使用し、断面におけるマグネシウムと銅の割合を変化させて、対数減衰率を測定しました。

マグネシウムの割合が増えるにつれて、電気伝導率は低下しますが、対数減衰率の値は向上します。

スピーカーケーブルにマグネシウムワイヤを芯材に入れる事で、スピーカーケーブル自身の振動を抑える効果が期待できます。

スピーカーケーブル「MS227C」の特徴

●導体芯にマグネシウムワイヤを使用

マグネシウムは振動吸収効果が高い素材であり、振動を抑制する用途として様々な分野で使用されています。特に制振効果が高い純度99.95%のマグネシウムワイヤを導体の芯材として設置することで、導体部分に伝わる振動を直接吸収する事をコンセプトとした新発想のスピーカーケーブルです。

マグネシウム断面積比率を約15%とする事で高い減衰効果が期待でき、導電性能とのバランスを考慮しました。

●伝送損失を低減する平行構造

プラスマイナス導体間に中空パイプでスパンを広げ、キャパシタンス(静電容量)を低減し、伝送損失を抑えました。長く引き回しても特性の劣化が少ない構造です。

●PC-Triple C導体の

極太φ0.7mm×6本撚構成を採用

導体線間伝達を極力少なくして、ストランド歪の減少を考慮、単線導体に近い長所を持つ強い撚線構成です。

銅線の太径化で導電性能を維持しました。

●絶縁体はポリエチレン

電気特性に優れたポリエチレンを絶縁体に、中間セパレータにポリエチレンパイプを、シースには軟質PVCを採用しました。

構造・スペック



<PC-Triple Cは特許第5871985の製品です>

概要

- 型番: MS227C
- 標準価格: 2,900円/m(税抜)
- ケーブル外径: 4×10mm
- 導体: PC-Triple C 0.7φ×6本
- 中心核導体: 純マグネシウム(純度99.95%) 0.7φ×1本
- 構造: 7本撚2芯平行構造
- 導体断面積: Cu 2.3sq、全体 2.7sq
- 静電容量: 36(pF/m)
- 導体抵抗: 7.8(mΩ/m)
- URL: <http://www.jpfs.co.jp/product/jfsounds.html>

●本件に関するお問い合わせ先

ジャパンファインスチール株式会社 JFSounds担当 TEL:0836-39-5509 FAX:0836-83-0186 E-mail:jfsounds@jpfs.co.jp